

触れ合って理解深めて



コミュニケーション能力の向上を目指し、芝居の要素を取り入れたユニークな教育法「ドラマケーション」が注目を集めている。これまでに主に小中学校などで活用されてきたが、就職活動対策などにも用途が広がっている。

人間関係育む教育法

ドラマケーション

「必ず誰かの体に触って、誰かの体に触られて。花を表現して。はい、ストップ」。大学アシリテーターと呼ばれる指導者を養成するための認定講座の一場面だ。このほか、生や教員など各地から集まった20〜50代の28人が、グループで触れ合いを感じながら身体表現を行う「ワンタッチ・オフシエ」に取り組んでいた。仲間を探るゲームなど、遊び

「ドラマケーション」の指導者を養成する講座で、身体表現に取り組む受講生ら。東京都新宿区

の要素を盛り込んだ多彩なメニューに挑戦していた。

ドラマケーションが本格的に取り組まれるようになったのは2007年ごろ。人間関係を育むことを目的とし、気軽に楽しくできるのが特徴だ。名称は、ドラマとコミュニケーションを組み合わせた造語。

これまでは、小中学生や高校生を対象に、集中力のアップなどを目的に実施されてきた。最近では、大学が就職活動に向けて、学生の自己アピール力向上のために導入したり、職場での良好な人間関係をつくるために企業が研修で活用したりしている。

同センターの講座は07年に



「ドラマケーション」の指導者を養成する講座で、ゲームを楽しむ受講生ら

集中力高め、表現力アップ

スタート。現在約180人がファシリテーターに認定されている。

受講生で、富山県東部教育事務所に勤める寺島紀子さん(46)は「ドラマケーションで学んだことを生かして、地元

の生徒たちに友達の気持ちを受け止める力を植え付けた」と期待を込める。

講師の正嘉昭さんは、ドラマケーションの効果について「すべて遊びなので、リラックスでき、集中できる。自分に素直になつて動くことで表現力がアップする」と話す。注意や余計なアドバイスはせず、本人の意思を尊重するという。正さんは、指導するポイントについて「うまい、下手と評価せずに相手を認めること。認め合うことで、つたない表現の中にも面白さや楽しさをお互いに見つけることができるんです」と説明している。同センター ☎03・53226・7033